

「黒部の太陽」福島で44年ぶり劇場公開

トンネル専門工事業の寿建設(福島市、森崎英五郎社長)は、福島市内の劇場で7月末に公開される映画「黒部の太陽」の前売り券の販売を開始した。同社の創業者、森崎鼎氏が映画の舞台である黒部ダムのトンネル工事に従事。その縁がもとで上映する「フォーラム福島」(福島市)に前売り券の販売協力を申し出て、本社で売り出すことになった。上映期間は7月28日～8月10日の2週間。前売り価格は1000円。

寿建設が前売り券販売協力 工事に従事した縁で

同社は、映画で取り上げられているダム建設の資材輸送路となる関電(大町)トンネルではなく、大成建設が担当した第5工区の下請企業として工事に参加。100度以上の高熱の岩盤を掘削した放水路左岸(高熱隧道)や、幅23m、長さ184m、高さ33mの巨大なトンネル空間を構築した発電所本体、勾配が34度もあるインクライン(傾斜鉄道)の建設を担当した。

森崎社長は「工区は違うが、福島にも黒部ダム工事に携わった業者がいることを知つてもらいたかった。トンネル工事業人々の苦悩と、重厚な人間ドラマを描いた超大作。石原裕次郎が主演して44年ぶりという。福島での劇場公開

は、トンネルではなく、大成建設が担当した第5工区の下請企業として工事に参加。100度以上の高熱の岩盤を掘削した放水路左岸(高熱隧道)や、幅23m、長さ184m、高さ33mの巨大なトンネル空間を構築した発電所本体、勾配が34度もあるインクライン(傾斜鉄道)の建設を担当した。

日刊建設工業新聞

幻の名画「黒部の太陽」

あすからフォーラムで上映

ノーカット完全版



「黒部の太陽」の一場面

劇場公開44年ぶり



映される。

ノーカット完全版の

劇場上映は公開以来四

十四年ぶり。石原さん

が「大きなスクリーン

で見てほしい」とござ

わったことから、テレビ

放送やビデオ・DV

D化は一切されていな

かった。

東日本大震災の被災

地復興を支援するた

め、石原プロモーション

と三船プロダクショ

ンなどの協力で全国で

熱いどうや発電所本

体の建設に携わった。

上映には福島市内の寿

建設が特別に協力す

る。同社の創業者森崎

昇(かなえ)さん(故)

人は黒部ダムのトン

ネル工事に従事し、高

い。開幕時七百三十万人を開催するヒット作となつた。

十五分の超大作で、公演時間三時間

さん。上映時間三時間

事とされた黒部ダム建設の人間ドラマを追っている。監督は熊井啓

さん。上映時間三時間

開幕時七百三十万人を開催するヒット作となつた。

三船敏郎さんと石原裕次郎さんが主演し
れる映画の名作「黒部の太陽」(昭和四十二年公開)が二十八日か
ら八月十日まで福島市のフォーラム福島で上

映画は、世紀の難工
事として、我々の仕事が
どんなものなのか、この
映画を通じて多くの方に
見てもらいたい」として
いる。

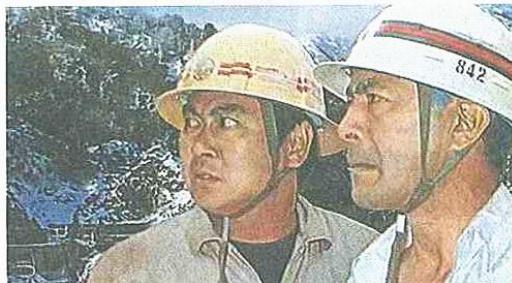
1968年に公開されて
いる。福島での劇場公開
は44年ぶりという。

福島民報

映画「黒部の太陽」

世紀の難工事といわれた黒部ダム建設の苦闘を重厚な人間ドラマとして描いた超大作映画「黒部の太陽」ノーカット版は28日から、福島市のフォーラム福島で被災地チャリティー上映される。8月10日まで。

「黒部の太陽」は、三船プロと石原プロの共同製作。昭和を代表するスターの石原裕次郎と三船敏郎、そして劇団民藝の宇野重吉が協力して完成了。1968(昭和43)年キネマ旬報ベストテン4位に輝き、観客動員数730万人を記録した。劇場上映は44年ぶり。版



チャリティー上映される映画
「黒部の太陽」ノーカット版
のワンシーン

福島 あすから

ノーカット版を上映 石原裕次郎の夫人まき
権を所有する石原プロモーションが、「これだけ
は映画館の大迫力の画面と音声で見てほしい」と
の石原裕次郎の遺志で、完全ノーカット版はテレビ放
映もDVD化もされなかつたまさに幻の名作だ。

子さんが、東日本大震災復興支援を目的に、完全版の上映を打ち出し、今回限りの劇場上映が実現した。上映に当たっては、創業者が黒四ダムの発電所などの建設に携わった

石原裕次郎の夫人まき
福島民友

ノーカット版を上映

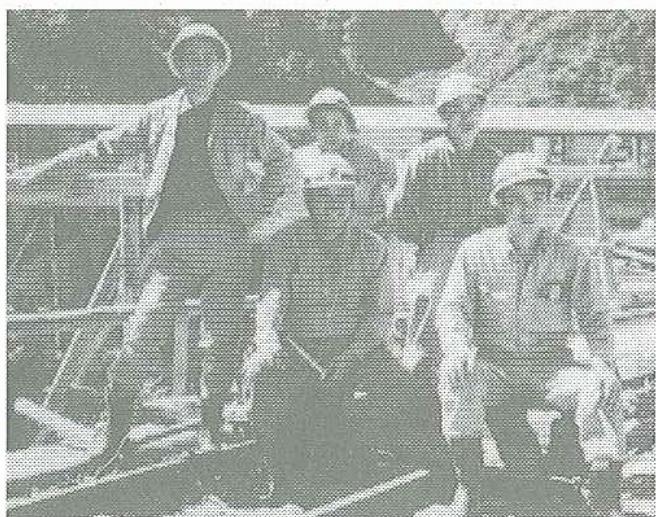
寿建設(福島市)がホーム

ページで映画をPRし、完工記念の記録集や記録映像のDVDなど貴重な資料を貸し出し、上映会場で展示する。県建設業協会も冊子配布を計画するなど、建設業界の関心も高い。

前売りは千円(当日券
1200円)。問い合わせ
はフォーラム福島(02
4・533・1515)へ。

「黒部の太陽」福島上映に協力

寿建設 創業者が隧道工事に従事



関西電力の水力発電トンネルの建設過程を
所・黒部ダム建設に伴つて、大型資材や車両の搬入路となる「関電(大町)

トンネル」の建設過程を描いた映画「黒部の太陽」
(三船・石原プロ共同製作)が10日まで、福島市の

「福島フォーラム」で上映されて

いるが、この黒部発電所の工事に

直接かかわ

た建設会社が県内に存在する。

同社は、この工事で元請の大成建設の信頼を得て、黒部の高熱隧道完了の5年後の昭和38年、大成建設とともに栗子トンネル着工に従事する。この祖父である森崎鼎(かなえ)氏が、映画の舞台となつたトンネルではないが、一連のプロジェクト

のうち第5工区(大成建設)、放水路左岸(高熱隧道)建設工事に携わった。

建設当時の寿建設創業者・森崎鼎氏(中央)

の父で英五朗社長だ。創業者で英五郎社長

の福島市寿建設(森崎英五朗社長)が、映画の舞台となつたトンネルではないが、一連のプロジェクト

のうち第5工区(大成建設)、放水路左岸(高熱隧道)建設工事に携わった。

年ぶりにノーカット完全版として劇場公開が決まつた「黒部の太陽」が県内

で唯一、地元福島市でも上映されることを知り、これを応援することに

ライン(傾斜鉄道)の建設を担当した。100度以上の高熱の岩盤を掘削する切羽の様子は、映画「黒部の太陽」でも紹介されている。

同社は、このほど工事を請け負って(寿・壁巣建設特定JV)着工した国道349号線御代田トンネル起工式の席でも森崎社長が黒部とのかかわりを披露し、出席者に映画「黒部の太陽」の前売り券をプレゼントした。

建設業協会も協力

県建設業協会も東日本大震災の記録を待合室に置いて、来場者の閲覧に供したり、映画の前売り券をまとめて購入するなど協力している。